

平成25年度

芸術文化振興基金 文化芸術振興費補助金 助成事業事例集



独立行政法人 日本芸術文化振興会

目次



芸術文化振興基金助成事業

舞台芸術等の創造普及活動

- 1 音楽**
「ムズカシイはおもしろい！」古典四重奏団のモーツァルト全曲 2013 古典四重奏団
- 2 舞踊**
藤田佳代舞踊研究所モダンダンス公演 創作実験劇場 藤田佳代舞踊研究所
- 3 演劇**
第 19 回公演「極東の地、西の果て」 TRASHMASTERS
- 4 伝統芸能の公開活動**
第四回長唄伝承曲の研究会 長唄伝承曲の研究会
- 5 美術の創造普及活動**
雨引の里と彫刻 2013 雨引の里と彫刻実行委員会
- 6 多分野共同等芸術創造活動**
第 19 回日本国際パフォーマンス・アート・フェスティバル (ニパフ '13)
日本国際パフォーマンス・アート・フェスティバル (ニパフ) 実行委員会

国内映画祭等の活動

- 7 国内映画祭**
山形国際ドキュメンタリー映画祭 2013 特定非営利活動法人山形国際ドキュメンタリー映画祭実行委員会
- 8 日本映画上映活動**
親と子のよい映画をみる会 親子映画埼玉連絡会

地域の文化振興等の活動

- 9 地域文化施設公演・展示活動（文化会館公演活動）**
劇団いかるが第十五回公演 斑鳩物語パート 15「三室の山に君ありて」
公益財団法人斑鳩町文化振興財団（斑鳩町文化振興センター（いかるがホール））
- 10 地域文化施設公演・展示活動（美術館等展示活動）**
東京・ソウル・台北・長春—官展にみる近代美術 福岡アジア美術館
- 11 アマチュア等の文化団体活動**
なかうみ交響楽団 第 10 回演奏会 なかうみ交響楽団
- 12 アマチュア等の文化団体活動**
人形浄瑠璃 2014 さっぽろ人形浄瑠璃芝居あしり座
- 13 歴史的集落・町並み、文化的景観保存活用活動**
第 36 回全国町並みゼミ倉敷大会 第 36 回全国町並みゼミ倉敷大会実行委員会
- 14 民俗文化財の保存活用活動**
一人操り伝統人形芝居の実演 特定非営利活動法人阿波の門付け芸保存会
- 15 伝統工芸技術・文化財保存技術の保存伝承等活動**
伝統的瓦葺技能研修会 特定非営利活動法人日本瓦葺技能継承協会



文化芸術振興費補助金助成事業

トップレベルの舞台芸術創造事業

- | | | |
|----|---|-------------------------|
| 16 | 音楽 (年間活動支援型)
札幌交響楽団
第 558 回～第 567 回定期演奏会 | 公益財団法人札幌交響楽団 |
| 17 | 音楽 (公演単位支援型)
堺シティオペラ第 28 回定期演奏会
オペラ「ロメオとジュリエット」 | 堺シティオペラ一般社団法人 |
| 18 | 舞踊 (公演単位支援型)
「真夏の夜の夢」「ケルツ」 | 特定非営利活動法人日本バレエアカデミーバレエ団 |
| 19 | 演劇 (年間活動支援型)
劇団青年座第 207 回公演『横濱短篇ホテル』 | 有限会社劇団青年座 |
| 20 | 演劇 (公演単位支援型)
「満月～みんなの歌シリーズより～」 | 南河内万歳一座 |
| 21 | 大衆芸能 (年間活動支援型)
ちえりあ・仙台寄席 | 公益社団法人落語芸術協会 |
| 22 | 伝統芸能 (公演単位支援型)
TTR 能プロジェクト秋公演「卒都婆小町 一度之次第」 | TTR 能プロジェクト |

映画製作への支援

- | | | |
|----|---|-------------------|
| 23 | 劇映画
MARCHING -明日へ- | MARCHING 株式会社 |
| 24 | 記録映画
赤浜 Rock'n Roll | ソネットエンタテインメント株式会社 |
| 25 | アニメーション映画 長編
映画かいけつゾロリ まもるぜ!きょうりゅうのたまご | 株式会社サンライズ |
| 26 | アニメーション映画 短編
盲目の砂糖 | Kuma films |

参考 芸術文化振興基金による助成

文化芸術振興費補助金による助成

1 「ムズカシイはおもしろい！」 古典四重奏団のモーツァルト全曲 2013

古典四重奏団

助成金額 300千円

活動概要

モーツァルトはその生涯を通じて、弦楽四重奏曲と向き合った。それらすべてを演奏するという事は、彼の創作活動をつぶさに研究することになる。14歳から最晩年まで書き連ねられた弦楽四重奏曲には、モーツァルトの才能すべてが注ぎ込まれている。

古典四重奏団による本活動は、平成25年9月23日・10月26日、東京文化会館小ホール（東京都台東区）で実施された。まずは、本公演に先立ち、最初の30分は演奏付きレクチャーが行われ、モーツァルトの他の分野の作品や同時代の作曲家の弦楽四重奏曲と比較することで理解を深めてもらった。続く本公演での通し演奏によって、モーツァルトの弦楽四重奏曲をじっくり味わってもらった。

9月23日のレクチャーの題名は『シューベルトではなく、ショーベルトって誰？』・『ト長調のここを聴いてほしい』。本公演ではト長調K80「ローディ」、二長調K155「ミラノ四重奏曲」、ヘ長調K164「ヴィーン四重奏曲」、ト長調K387「ハイドン四重奏曲第1番」が演奏された。

10月26日のレクチャーの題名は『ヴォルフガングのお友達、ジョン・バックの正体は？』・『二短調のここを聴いてほしい』。本公演ではト長調K156「ミラノ四重奏曲」、イ長調K169「ヴィーン四重奏曲」、二長調K575「プロイセン王四重奏曲第1番」、二短調K421「ハイドン四重奏曲第2番」が演奏された。

演奏は、古典四重奏団（1986年東京芸術大学および同大学院の卒業生により結成）の第1ヴァイオリン川原千真、第2ヴァイオリン花崎淳生、ヴィオラ三輪真樹、チェロ田崎瑞博。

同メンバーによるアンサンブルは22年目となり、個々の技量が高まり、全体の音楽の調和もとれるようになった。



▲古典四重奏団

古典四重奏団 アレグロミュージック

〒102-0094 千代田区紀尾井町 3-29-5002

Tel:03-5216-7131

2 藤田佳代舞踊研究所モダンダンス公演 創作実験劇場

藤田佳代舞踊研究所

助成金額 800千円

活動概要

藤田佳代舞踊研究所は、若手舞踊家、振付家育成および実験的作品の上演を目的に、1994年より毎年、新作モダンダンス10作品程度を上演している。この公演は、8月最終日曜日に行うスタジオ公演 Dance Bouque で創った作品をさらに発展させたものである。特に若い創作者が全力で取り組み、自分が表現したいものを深く考えることが特徴である。

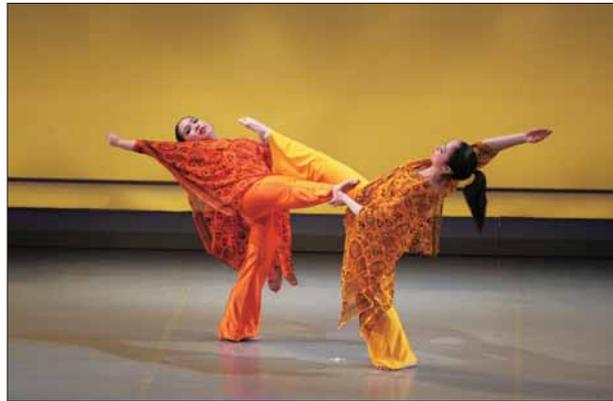
感性でキャッチしたものを作品として知的に構成する作業を学ぶ。何をしても、どんなことをしても構わないが、それがどんなに自分にとって切実か、少なくとも仲間のダンサーを説得するか同意を得るようにする。若い時期から踊りを創り、自作自演や他のダンサーに振付け、自分の作品として表現していく公演となっている。

平成26年3月1日、東灘区民センターのうはらホールで実施。「聞く」をテーマに、「メッセージ」「Sun Power」「PORTRAIT」「今、ここに咲く花」「Hamming Bird」「夜明けまでの子守唄」「言葉なき声が聞こえたら」「夜明けの詩」「Progress」「HANANA / 再生の花」の新作10作品を上演した。「Sun Power」は作舞・出演が中学2年生と3年生、演奏が三味線演奏（作曲も本人による）が高校1年生、ピアノが小学5年生と、若手の集団によって上演された。

11人の作舞者が、出演者とともに、とらえたテーマを真剣に掘り下げ、各人の個性が光るモダンダンスができ上がった。割幕や舞台下のアリーナ、客席階段を使用したり、休憩時間に即興的作品（「Six Dances with Same Music」）をサプライズ上演する等、実験的試みに挑戦した。思いと祈りに満ちた舞台となり、特に福島を取り上げた「メッセージ」は、観客とステージが一体となり、東北の大地と人々を鼓舞することができた。



▲「メッセージ」



▲「Sun Power」

藤田佳代舞踊研究所

〒658-0051 兵庫県神戸市東灘区住吉本町 1-4-4

Tel:078-822-2066

3 第19回公演「極東の地、西の果て」

TRASHMASTERS

助成金額 2,700千円

活動概要

TRASHMASTERS (トラッシュマスターズ) は、「震災、少子化、農業自給率の低下、経済格差等、社会的背景を題材に、若い層に向けて将来を考える」をテーマに演劇作品を作ってきた。

作・演出の中津留章仁は、第46回紀伊國屋演劇賞個人賞、第14回千田是也賞、第19回讀賣演劇大賞優秀演出家賞を受賞し、演劇界で今最も注目される劇作家である。

本活動「極東の地、西の果て」は、本多劇場で公演された。農業自給率の問題を扱っており、2005年に初演、2008年に再演した、TRASHMASTERSの代表作である。

フランスで賞を受賞した画家の滝内龍太郎の元に、大学時代の友人である男がインタビュアーとして訪れる。大学を卒業後、「学校」という名の不思議な施設で絵描きを目指していた主人公は、感性の研ぎ澄まされた孤高の芸術家となっていく。一方、九州に移転した「学校」のおかげで九州の地方自治体は財政が潤い、地方税の格差が問題視される。国家は九州に住む人間だけを対象に、九州増税という名の増税案を可決する。これを受けた九州の各地方自治体は、日本の国債を支払う代わりに、政治的に独立すると声明を発表する。

初演の脚本を一部改定して上演。芸術に関する内容の作品だったため、芸術に携わる方々、演劇が好きな方に好評だった。また、大胆なセットチェンジ、水を使った演出プラン等、レベルの高い公演を打つことができた。



▲「極東の地、西の果て」



▲「極東の地、西の果て」

TRASHMASTERS

〒168-0073 東京都杉並区下高井戸 1-16-9-205

Tel:090-7411-6916 URL:<http://www.lcp.jp/trash/>

4 第四回長唄伝承曲の研究会

長唄伝承曲の研究会

助成金額 200千円

活動概要

長唄伝承曲の研究会は、「埋もれてしまった良曲を掘り起こし、再び現代に生きる名曲として世に広めていく」ことを趣旨として活動している。研究会は会の趣旨に賛同する気鋭の演奏家を中心に構成。「良曲ではあるが、難曲故優れた演奏家に恵まれず埋もれてしまった曲」を厳選し、演奏次第で現代においてもその魅力を十分に共感していただけるものを、より魅力的に編集し直し、公演を行ってきた。

平成 25 年度助成対象活動として採択された活動は、平成 25 年 8 月 25 日、紀尾井小ホール（東京都千代田区）で実施。プログラムは全四曲。「江ノ島」（1835 年初演、作曲：四世杵屋六三郎）は、江島縁起を題材に作られた能の「江島」から詩を取ったと言われ、巧みな作曲であり技巧を要する曲である。「六玉川」（1829 年初演、作曲：四世杵屋六三郎）は、和歌に詠まれた日本全国 6 か所にある玉川の総称、六玉川を題材に歌われた曲である。「猿まわし」（1811 年初演、作曲：四世杵屋六三郎）は、猿回し使いと猿との旅を通したやりとりが全体を通して明るく語られている曲。「珠取海士」（1832 年初演、作曲：十世杵屋六左衛門）は、海女の悲しい語りと母親の愛の情念の深さが印象的な曲である。

意欲的なプログラムのもと、会員一同が長唄の新たな魅力を引き出し、充実した会を開催することができた。聴衆からも好評価を博し、音楽的のみならず学術的な意義も非常に高い公演となった。

長唄伝承曲の研究会

〒108-0071 東京都港区白金台 4-13-8 松永方



▲第四回長唄伝承曲の研究会

5 雨引の里と彫刻 2013

雨引の里と彫刻実行委員会

助成金額 3,500 千円

活動概要

雨引の里と彫刻実行委員会は、茨城県桜川市の旧大和村の里山や集落を舞台に、彫刻を通して田舎の風景を再認識することを目的として、参加作家各人が地域内を丹念に調査し、全体での調整を重ねたうえで、希望の場所に作品を展示する野外彫刻展を実施した。

前回展「雨引の里と彫刻 2011」では、“冬のさなかに”と題し、凜とした冷たい空気と彩度を落とした真冬の風景の中の展覧会を試みた。雪景色のスタートは真冬の開催にふさわしく、充実した作品の並ぶ展覧会であったが、会期終了直前に東日本大震災が発生したため展覧会はやむなく閉鎖。農業、石材産業を主とするこの地域にも震災の被害は及んだ。幸い作品の倒壊はなく、この展覧会における作品の安全管理の高さを示したが、参加作家にとっては最後までやり遂げられなかった悔しさが残った。

9 回目を迎える本活動は、9 月から 11 月にかけての 2 か月間、参加作家 38 名の作品が、大国玉地区にて展示され、会場来場者数約 8,500 名と、過去最高となった。

秋のさわやかな風や里山の美しさを体感しながら点在する作品群をオリエンテーションのように巡る楽しさは、まさにこの展覧会の醍醐味である。期間中に行われた 2 回のバスツアーによる鑑賞会、3 回のワークショップも好評であった。

地元の中学校在この展覧会を美術の授業に取り入れるなど、地域の教育活動にも貢献できる活動となり、本活動を通じて作家と地域との接点ができ、地域の活性化の一端につながっている。日本の里山の美しさと彫刻の持つ力を体感しながら、芸術家の表現活動と社会との関わりを探るうえでも、示唆に富む展覧会になった。



▲戸田裕介「水土（すいど）の門／天地を巡るもの」



▲國安孝昌「雨引く里の竜神 2013」

桜川市教育委員会生涯学習課（真壁伝承館内）

〒300-4408 茨城県桜川市真壁町真壁 198

6 第19回日本国際パフォーマンス・アート・フェスティバル（ニパフ'13）

日本国際パフォーマンス・アート・フェスティバル（ニパフ）実行委員会

助成金額 1,700千円

活動概要

【特定の芸術分野に分類することが困難な公演・展示活動】

個人の美的感覚や詩的感覚で行為作品を作る活動は、1989年冷戦構造崩壊後に世界各地の広範な地域で活発化した現代芸術分野である。今日では、アジアや南米を含む多数の国で、この分野の国際フェスティバルが行われている。中でも、1993年から実施している本フェスティバルは、その先駆的な役割を果たしている。

第19回日本国際パフォーマンス・アート・フェスティバル（ニパフ'13）は、海外芸術家8名（シルテシュ・ヤノシュ、ヤヌシュ・バルディガ、ヤリーナ・シュムスカ、カテンカ・アンヘルス、サウル・サウガンガ、ノラ・ミャンマー、インタン・アグスティン、グアジー）、国内芸術家15名（霜田誠二、黒田オサム、倉田めば、犬飼美也妃、北澤一伯、岡原正幸、白川昌生、濱田明李、杉英恵、中井翠子、村上可穂、正田ユミ子、椎名アキ、社納葉子、巨敏治）が、現代パフォーマンス・アートの自作品発表を毎日約6～8名ずつ行った。作品のあらすじは、それぞれの個人の創作により多様である。

平成25年6月24日～26日はアーツ千代田にて（東京都千代田区）、6月28日～30日は西成太子福祉館（大阪西成区）にて、7月3日～4日はネオンホール（長野県長野市）にて実施された。

世界各地からこの分野の有力な芸術家を招き、活発な活動を紹介することができた。特に、ウクライナとネパールからは初めて招聘できた。国内出演者も、東京、埼玉、大阪、兵庫、滋賀、長野、群馬等、多様な地域から参加した。



▲パフォーマンスの様相



▲パフォーマンスの様相

日本国際パフォーマンス・アート・フェスティバル（ニパフ）実行委員会

〒380-0935 長野県長野市御所 2-8-15

7 山形国際ドキュメンタリー映画祭 2013

特定非営利活動法人山形国際ドキュメンタリー映画祭実行委員会

助成金額 20,000 千円

活動概要

時代を映す鏡であるドキュメンタリー映画を世界中から集め、212本を上映した。

インターナショナル・コンペティション部門では、平成23年4月1日以降に制作されたものを世界中から公募し、117の国・地域から寄せられた1,153本のうち15本を選出。コンペティション形式で上映。

アジア千波万波部門では、アジア在住またはアジア出身作家のフレッシュな作品を紹介し応援するプログラムとして、19本の秀作を上映。

国内では初のクリス・マルケル大特集や、2011年に引き続いての実施となる「ともにある Cinema with Us」プログラムでは、東日本大震災関連作品を上映。

インターナショナル・コンペティション部門の大賞「ロバート&フランシス・フラハティ賞」には、レバノンのパレスチナ難民キャンプの家族を追ったマハディ・フレフェル監督（デンマーク）の「我々のものではない世界」が輝いた。アジア千波万波部門の最高賞「小川紳介賞」は、ズーン・モン・トゥー監督（ベトナム）の「ブアさんのござ」が選ばれた。

平成25年10月10日～17日の8日間、山形市中央公民館、山形市民会館、フォーラム山形、山形美術館、山形まなび館で上映され、22,353人が参加した。

国内外からのゲスト、観客、映画業界人らが交流を深め、映像文化の現在と未来について語り合うことに重点を置いた本映画祭では、作品鑑賞のほか、長時間の質疑応答や多彩なシンポジウムなどによって参加者にその機会を提供することができた。

また、近年特に増加している若い世代の観客と作家や映画関係者との間の交流も盛んに行われ、国際理解と国際交流を促進した。さらに、日本国内において優れたドキュメンタリー作品を積極的に劇場公開しようとする機運が窺え、実際に映画祭上映作品の配給契約交渉等も盛んに行われていた。



▲シンポジウムの模様



▲授賞式の模様

特定非営利活動法人山形国際ドキュメンタリー映画祭

〒990-0044 山形県山形市木の実町9-52 木の実マンション201号

Tel:023-666-4480

8 親と子のよい映画をみる会

親子映画埼玉県連絡会

助成金額 800 千円

活動概要

親子映画埼玉県連絡会による本活動は、親と子が一緒に映画を鑑賞し、感動を共有する上映会を通じて、家庭での親子の対話や地域での交流が広がることを目的に実施。東日本大震災や長引く不況の中、子どもたちは今まで以上に、家族や友人と一緒に参加して、感動を共有する場が必要だと思われる。

近年の上映会は経済的不況の中、これまで以上に親子の参加が急激に減少しているが、良い芸術・文化・映画を鑑賞したいと願う父母の要求は多い。

今期の作品は、豊かな自然とやさしい人々が生きる瀬戸内を舞台に家族愛を描いた「ももへの手紙」や宮沢賢治原作の長編ファンタジー「グスコープドリの伝記」を選定。

平成 25 年 10 月～平成 26 年 3 月までの期間、埼玉県吉川市・熊谷市・深谷市・上尾市・志木市・さいたま市・行田市において上映会を実施し、1,535 人が参加した。

上映に際し、作品の理解を高めるため、舞台となった瀬戸内の島々の様子を紹介するパンフレットを配布・掲示。また、未使用のはがきを多くの方からいただき、鑑賞した皆さんから家族や友人等に手紙を書いて送るといった取組も実施した。そのほか、参加者に感想文を書いてもらい、後日、感想文集を手作りして、参加者の皆さんに届けた。

震災後、不安を抱える子どもたちや親のみなさんに、楽しく感動する時間を提供することができた。



▲さいたま市での上映



▲上映前にみんなで手遊び

親子映画埼玉県連絡会

〒330-0062 埼玉県さいたま市浦和区仲町 3-2-1 仲町スカイマンション 207

Tel:048-822-7428

9 劇団いかるが第十五回公演 斑鳩物語パート15『三室の山に君ありて』

公益財団法人斑鳩町文化振興財団（斑鳩町文化振興センター（いかるがホール））

助成金額 200千円

活動概要

春には桜、秋には紅葉の色彩が楽しめる三室山がある奈良県斑鳩町は、世界文化遺産の里としても有名であり、法隆寺をはじめ、法起寺、法輪寺等、数多くの木造建築群を有する。公益財団法人斑鳩町文化振興財団は、住民主体の芸術文化活動施策を展開しており、劇団いかるが公演では、斑鳩町に継承されてきた貴重な歴史を題材に、住民自ら劇曲を創作し、住民自らが演じている。

『三室の山に君ありて』は、古くより脈々と受け継がれた斑鳩町の魅力ある歴史風土を情報発信するために、古来より神の鎮座する山とされ、春には桜の名所として、秋にはその麓の竜田川を染める紅葉といった美しい姿で心を和ませてくれる三室山と、「嵐吹く三室の山のもみぢ葉は竜田の川の錦なりけり」（百人一首より）の句の作者で知られる能因法師を題材に創作された劇曲である。

能因法師は、旅から旅へと過ごした平安時代を代表する歌人であり、そんな歌人に憧れて故郷・斑鳩を離れた兄と、家を守り土地に根差して生きる弟の再会を巡る「絆」の物語である。

平成25年11月10日、いかるがホールで上演。臨場感溢れる三室山と理髪店のセット、照明効果のある演出は好評で、斑鳩の里の魅力を町内外に発信する公演となった。劇中の振付指導や髪結い指導等については、劇団員以外からの協力も得られ、住民同士の交流の輪も広がった。

今後の公演への期待感が高まり、演劇による地域文化及び地域コミュニティの活性化につながることを期待できる活動であった。



▲斑鳩物語パート15『三室の山に君ありて』

公益財団法人斑鳩町文化振興財団

〒636-0123 奈良県生駒郡斑鳩町興留 10-6-43（斑鳩町文化振興センター（いかるがホール））

Tel:0745-75-7743 URL:<http://www.town.ikaruga.nara.jp/ikaho>

10 東京・ソウル・台北・長春 —官展にみる近代美術

福岡アジア美術館

助成金額 2,200千円

活動概要

20世紀前半の官設の公募展（文展・帝展、朝鮮美術展覧会、台湾美術展覧会・台湾総督府美術展覧会、満洲国美術展覧会）は、当時の日本政府が文化政策の一環として実施したため、審査制度等に対する問題も指摘されているが、一方で作家にとって学習・研鑽の機会、新人の登龍門にもなった。本活動はこれらの公募展に光をあて、日本、韓国（旧朝鮮）、台湾及び中国東北部（旧満州）における近代美術の諸相を紹介する活動である。

福岡アジア美術館による本活動「東京・ソウル・台北・長春—官展にみる近代美術」は、平成26年2月13日～3月18日、同館の企画ギャラリーにて実施された。

キム・ギチャン（韓国）の『或日』、チャン・ウソン（韓国）の『画室』、イ・インソン（韓国）の『窓辺』、リン・ユイアン（台湾）の『故園追憶』、グオ・シュエフ（台湾）の『円山附近』、チェン・チェンポー（台湾）の『初秋』、黒田清輝（日本）の『もるる日影』、安井曾太郎（日本）の『承德喇嘛廟』、新海竹蔵（日本）の『砧』をはじめ、129点の作品が展示された。

本展が対象とする領域の近代美術についての理解を助けるために、専門家を招いた集中講座や担当学芸員によるギャラリー・トーク等、一般に向けた教育プログラムも実施された。

各作家の優れた作品を展覧することで、北東アジア全体の近代美術を概観し、比較検証する土台を築くことができた。また単独では見えてこない共通性や特性も明らかになり、歴史的事実を伝えつつ、各国・地域で独自に成立したそれぞれの美術の社会的背景がうかがえた。



▲ チャン・ウソン『画室』1943年 リウム三星美術館所蔵



▲グオ・シュエフ『円山附近』1928年 台北市立美術館所蔵

福岡アジア美術館

〒812-0027 福岡県福岡市博多区下川端町3-1 リバレインセンタービル7・8階
 Tel:092-263-1100

11 なかうみ交響楽団 第10回演奏会

なかうみ交響楽団

助成金額 400千円

活動概要

なかうみ交響楽団は平成16年に創立され、山陰の中海周辺の音楽グループや個人が参加するネットワークオーケストラである。鳥取県、島根県、広島県等で熱心に活動しているアマチュアオーケストラの愛好者が半年間の練習を経て、合同の演奏会を開催している。参加メンバーはそれぞれの生活圏で地元のオーケストラ等に所属し、地域での演奏活動を行うとともに、なかうみ交響楽団にも参加し、アマチュアオーケストラの理念や運営ノウハウを習得しようと意欲的に活動している。

人口の少ない過疎地域では、各自治体単位で大規模なオーケストラを組織することは難しい状況であるが、地域に根付いた演奏活動と、充実したオーケストラ活動を両立するためには、近隣地域とのネットワークにより支援しあうことが有効であり、この活動はそのような連携の成功例である。

なかうみ交響楽団第10回演奏会は、平成25年9月7日、島根県民会館大ホールで実施され、主な演目はモーツァルト「フィガロの結婚」序曲、ピアノ協奏曲第26番「戴冠式」、ベートーヴェン「交響曲第7番」であった。楽団の構成は、指揮者に大阪音楽大学名誉教授の松尾昌美、ピアノ独奏に松江市を中心に演奏活動をしている代香織、ほか計60名である。2名の小学生を含む、10～70歳代という幅広い出演者が集まり、ピアニストの人柄とマッチした協奏曲やテレビドラマ「のだめカンタービレ」で人気の曲が好演された。

演奏者や地域のオーケストラを運営できるリーダーを育成したり、文化活動が行いにくい過疎地等において聴衆を含めた人づくりにより地域活性化を図るグッドプラクティスである。

なかうみ交響楽団

〒692-0011 島根県安来市安来町1547-1



▲演奏の様様



▲演奏の様様

12 人形浄瑠璃 2014

さっぽろ人形浄瑠璃芝居あしり座

助成金額 500千円

活動概要

さっぽろ人形浄瑠璃芝居あしり座は、札幌市こどもの劇場やまびこ座で主催していた人形浄瑠璃講習会の受講生を中心に、北海道で数少ない人形浄瑠璃の良さを子供から大人まで広く道民に伝えたいという思いで、アイヌ語から「あしり（=新しい）」座と命名し、平成7年に発足した。

市民の手によって演じられることで、伝統芸能である人形浄瑠璃が北海道に根付き、新しい文化として、北の大地で育ってほしいと活動を続けている。

「伝統を守るのではなく、どのように発展させていくのか。北海道だからこそできる人形浄瑠璃を考えていくことが大切である」という思いを胸に、この活動は20年目を迎える。

本活動「人形浄瑠璃 2014」は、平成26年2月8日、9日、札幌市こどもの劇場やまびこ座で実施された。講習会受講生を中心に「二人三番叟」、前年度上演した前段からの「本朝廿四孝 謙信館十種香より奥庭狐火の段」、あしり座オリジナル作品「祝い唄」を上演した。演出は八王子車人形西川古柳座五代目家元である西川古柳。「本朝廿四孝」は、浄瑠璃・三味線・琴の生演奏により、迫力のある舞台となった。新作の「祝い唄」においては、人形だけではなく、義太夫も初めて講習会受講生で実施し、新たな一歩を踏み出すことができた。

毎年、楽しみにしているリピーターも徐々に増え、観客とともに北海道で生まれた人形浄瑠璃が定着しつつある。北海道における人形浄瑠璃の定着、伝統を通しての新しい発見、多くの人との関わり等に成果があがっている。

さっぽろ人形浄瑠璃芝居あしり座

〒065-0027 北海道札幌市東区北27条東15丁目
札幌市こどもの劇場やまびこ座気付
Tel:011-723-5911



▲「二人三番叟」



▲「本朝廿四孝」

13 第36回全国町並みゼミ倉敷大会

第36回全国町並みゼミ倉敷大会実行委員会

助成金額 1,600千円

活動概要

全国町並みゼミは、歴史的集落・町並みの保存について、住民・研究者・行政担当者らが一堂に会し、同じ場所で学習・交流を行うものである。毎回、開催地が主体となって構成する実行委員会によって、開催地が設定したテーマで運営されている。

本活動「第36回全国町並みゼミ倉敷大会」は、平成25年9月20～22日、岡山県の倉敷市、高梁市、浅口市、矢掛町という高梁川流域の町並みが舞台である。

全体会開催地の倉敷市は、地域の民芸運動に支えられた市民活動が芽生え、全国に先駆けて市独自の町並み保存条例が施行後、重要伝統的建造物群保存地区に選定された、わが国の町並み保存運動のリーダー的な存在であり、草創期から数え、現在は3世代目が活動を担っている。

今回は特に倉敷・備中地区の歴史的町並みに焦点をあて、「つながる地域文化の伝統と創造～備中の風土力の発信～」をテーマに開催した。

参加者は全国から約600名が集まり、3日間にわたり、熱心な討議を繰り広げた。神崎宣武（旅の文化研究所所長）による基調講演「町並みと旅の文化」や各地からの報告、地域と全国の活動、団体との交流と具体的な町並み学習交流会等を通じ、倉敷・備中地区の伝統と文化、重厚かつ洗練された町並みの魅力が十分に感じられる活動であった。全国からの参加者はその継承に向けた地域の人々のこれまでの努力に触れ、また互いに各地の経験と課題が共有され、活動が充実するとともに相互ネットワークも強化された。このことによって、それぞれの地域が歴史的個性を輝かせ、一層美しい町並みの実現を目指すことが確認された。



▲大会の様様

第36回全国町並みゼミ倉敷大会実行委員会

〒710-0046 岡山県倉敷市中央 2-10-12

14 一人操り伝統人形芝居の実演

特定非営利活動法人 阿波の門付け芸保存会

助成金額 900千円

活動概要

一人操りの伝統人形芝居は、古くから市民に親しまれ、各地の伝統人形芝居として定着してきた。しかし、娯楽の多様化や、急速な経済の発展による地域コミュニティの変質により、姿を消した人形座も少なくない。その中で、今日まで一人操りによる人形芝居を伝承してきた稀少な座やグループを招聘して、伝統人形芝居の魅力を発信し、伝統人形芝居の振興を図った。

本活動「一人操り伝統人形芝居」は、平成25年11月16日、徳島県名西郡石井町中央公民館ホールで実施された。人形劇場たけのこ（香川県さぬき市）による「十九の春」、乙女文楽 桐竹繭沙也（大阪府大阪市）による「鷺娘」、佐渡人形芝居 常盤座（新潟県佐渡市）による「義経千本桜 大物浦の段」、阿波木偶箱まわし保存会（徳島県徳島市）による「三番叟まわし」「箱廻しメドレー」が上演された。また、豊澤町子による義太夫三味線、山上明山による尺八、邦楽藤浪会による演奏が花を添えた。

今回出演した一人操りの伝統技法を伝承する四座は、近世から近代にかけて発達した独特の形態を持つ。香川の熟練された人形芝居、舞台芸として磨かれた大阪の乙女文楽、庶民の娯楽としての佐渡人形芝居、神事芸能ともいえる徳島の三番叟まわしを招聘し、上演したことにより、伝統人形芝居の多様性を楽しませる公演となり、幅広い市民層に鑑賞してもらえる機会となった。

また、それぞれの座の成立過程や盛衰を紹介することで、伝統人形芝居の歴史やつながりを学ぶ場ともなり、多様な一人操りの伝統人形芝居の持つ魅力を再評価する機会となった。

特定非営利活動法人 阿波の門付け芸保存会

〒779-3112 徳島県徳島市国府町芝原字神楽免 158

Tel:088-642-0749



▲阿波木偶「三番叟まわし」

15 伝統的瓦葺技能研修会

特定非営利活動法人日本瓦葺技能継承薈会

助成金額 2,200 千円

活動概要

特定非営利活動法人日本瓦葺技能継承薈会は、昭和62年に前身の「薈会」を立ち上げ、伝統瓦葺きの技能・技術の普及を目的に設立された。全国の伝統技能取得希望者を対象とした「薈技塾研修会」を京都で開催するとともに、地方の技能者育成と、より充実した活動の普及継続を目的に、実技講習を主体とした「全国移動研修会」を開催。同時に、全国各地の国宝・重要文化財の見学研修会や現場講習会を開催してきた。現在までに研修会修了者を述べ550超名輩出し、参加者は各地において、技能の継承に尽力している。

「伝統的瓦葺技能研修会」は、各地方に残る日本建築、地域文化財保存修理等の伝統的瓦葺施工に従事する瓦葺技能者に対して、講義・実演・見学・実習を行い、伝統的瓦葺技術の保存に必要な知識・技能・技術の習得ならびに資質の向上を図るものである。各地方に点在するその地方で残さなければならない瓦文化を保存継承し、後継者育成に努める人材育成を図ることを目的としている。

本活動「伝統的瓦葺技能研修会」は、平成25年7月～平成26年3月、静岡県袋井市の(株)瓦葺研修場（東日本会場）、京都府京都市嵯峨のコミュニティ嵯峨野（西日本会場）で開催された。1回を4日間（34時間）で行うもので、初級では移動研修もあわせ年間2回、中級では年間3回開催（12日間、102時間）された。

研修は初級・中級の2階級に分けて実施されるが、今回はそのうち中級の前期に当たる。中級研修は「地域の文化財工事に携われるレベルの技能者」が対象である。12名の研修生が伝統建築物修理技能者としての知識、理論、心構え等、座学講習を受けることで、基礎レベルの研修を受けた。文化財専門分野の著名な講師を招聘し、文化財修復技能者育成に欠かせない内容が伝承された。また、実践講習として実際の建物を想定して必要な瓦のテンプレートを作成し、これを用いて平瓦の展開図や振れ隅の原寸図を学び、寺社建築の基礎施工法を習得することができた。

各地方に新世代の修理技術後継者の卵を育てることができ、これからの文化財保護、技能継承につながる活動であった。

特定非営利活動法人日本瓦葺技能継承薈会

〒437-0062 静岡県袋井市泉町1-4-4



▲【初級研修】
西日本会場 京都市嵯峨 コミュニティ嵯峨野にて、寺社建築瓦納まり原寸図講習風景。



▲【中級研修】
静岡県袋井市 (株)瓦葺研修場（東日本会場）に於ける、寺社建築入母屋架台を用いての実技講習風景。

16 札幌交響楽団 第 558 回～第 567 回定期演奏会

公益財団法人札幌交響楽団

助成金額 58,700 千円

活動概要

公益財団法人札幌交響楽団は、トップレベルの舞台芸術創造事業の年間活動支援型として以下の活動にも助成を受けている。

○札幌交響楽団 名曲コンサート 2013-2014

助成金額 :23,100 千円

○札幌交響楽団 シンフォニックプラス

助成金額 :3,500 千円

北海道唯一のプロオーケストラである札幌交響楽団は昭和 36 年（1961 年）創立。平成 25 年度、通算 21 年間指揮者を務める尾高忠明の音楽監督のもと、さらに洗練の度合いを深めた技術と表現力で幅広いレパートリーから国際色豊かなプログラムを披露し、北海道民をはじめ、国民の期待にこたえるべく活動をしている。



▲第 562 回定期演奏会の模様

本活動は、平成 25 年 4 月から平成 26 年 3 月にかけて、札幌コンサートホール Kitara 大ホール（2008 席）において、10 プログラムを各 2 公演、計 20 公演実施した。音楽監督の尾高の指揮で 3 プログラム 6 公演、首席客演指揮者ラドミル・エリシュカの指揮で 2 プログラム 4 公演を実施。その他、客演指揮者としてロシアからドミトリー・キタエンコ、札幌の姉妹都市テジョンからグム・ノサン、ドイツからマックス・ボンマー、カザフスタンからアラン・プリバエフ、スイスからマティアス・パーメルトを迎えた。



▲第 563 回定期演奏会 指揮者：ラドミル・エリシュカ（撮影：野口隆史）

尾高は得意とするブルックナー、ブリテン、シベリウス、そして首席ティンパニ奏者の武藤厚志を独奏者にテリヘンの協奏曲を指揮。中でも生誕 100 年記念のブリテンの傑作「戦争レクイエム」の演奏は、英・独・スロベニアの独唱者を招聘し、この年一番の注目を集めた。全国的に人気が高まっているエリシュカは、ブラームスとお国もののドヴォルジャーク、そして首席チェロ奏者の石川祐支を独奏者にドヴォルジャークの協奏曲を指揮、北海道外からも多くの来場者を迎えた。また、この年度に招いた客演指揮者の中ではボンマーが、邦人作曲家新実徳英、モーツァルト、シューマンを名演し高い評価を得た。

公益財団法人札幌交響楽団

〒064-0931 北海道札幌市中央区中島公園 1-15 札幌コンサートホール内
Tel:011-520-1771

17 堺シティオペラ第28回定期公演 オペラ「ロメオとジュリエット」

堺シティオペラ一般社団法人

助成金額 11,800千円

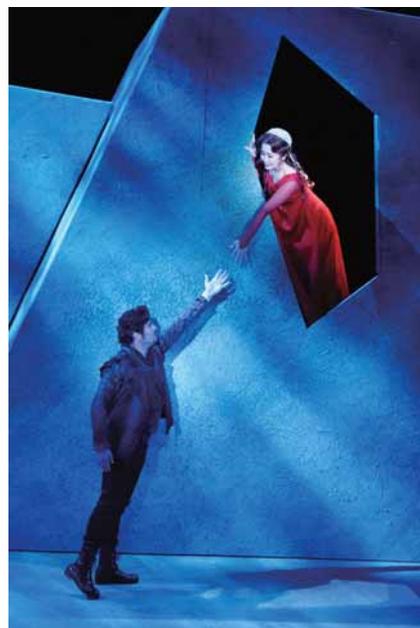
活動概要

堺シティオペラ一般社団法人では、オペラ愛好家はもちろん、未来を担う子供たちや、オペラを敷居の高いものとして敬遠している方々にも、総合芸術としての素晴らしいオペラを提供することで、オペラ文化の普及に努め、文化の向上を目指した活動を行っている。

本活動は、平成25年9月7日～8日、堺市民会館にて実施。C.F.グノーがグランドオペラとして完成させた、文学的に歴史に残る不屈の名作「ロメオとジュリエット」を、関西に拠点を置く団体として初めて取り上げた。歴史的な宿命からなる悲哀、その叶わない愛に助力し、愛の成就を願う心などが、オペラを鑑賞する多くの観客の情緒に強く響き、豊かな人間性が育まれることを考えて企画した。

指揮者にフランスのヤニック・パジェ、歌手陣にも二人のフランス人を起用。国内外で活躍する演出家の栗國淳のもと、オーディションによって選ばれたオペラ歌手に、充実したバレエ団も加え、世界的レベルの質の高い舞台が上演された。主なキャストは、ロメオ（テノール）にブルーノ・ロッパ / 笛田博昭、ジュリエット（ソプラノ）に古瀬まきを / 並河寿美、キャピュレット卿（バス）に迎肇聡 / フレデリック・カトン、ローランス神父（バス）に福嶋勲 / 片桐直樹、ティバルト（テノール）に瀬田雅巳 / 小林峻、ステファノー（ソプラノ）に藤村江李奈 / 水野智絵である。

上演機会の少ないフランスグランドオペラを全幕・バレエ付で上演することで、オペラの総合芸術としての真の姿とその素晴らしさを伝える公演であった。



▲オペラ「ロメオとジュリエット」



▲オペラ「ロメオとジュリエット」

堺シティオペラ一般社団法人

〒591-8037 大阪府堺市北区百舌鳥赤畑町4-256 八光ビル
Tel:072-254-1151

18 「真夏の夜の夢」「ケルツ」

特定非営利活動法人日本バレエアカデミーバレエ団

助成金額 16,300千円

活動概要

本活動は、「真夏の夜の夢」と「ケルツ」。英国ロイヤルバレエの大ヒット作「不思議の国のアリス」を振付した若手振付家クリストファー・ウィールドンの作品「真夏の夜の夢」を上演した。妖精王オベロンは女王タイタニアとの争いから、惚れ薬を使ったちょっとしたいたずらを企て、妖精パックに命ずる。そこへ駆け落ちをしようと森の中へやってきた若いカップルと友人たち、さらには森の中で寸劇の練習に来た町の職人たちを巻き込み、大騒動を繰り広げる内容となっている。

同時にライラ・ヨーク振付による「ケルツ」も上演。特に具体的なストーリーがあるわけではなく、バグパイプを生かした民俗音楽に乗り、キルトの衣装を着けたダンサーたちがアイリッシュダンスを踊る作品である。過去の人々にとって厳しかった時代や、喜び等を表現している。

また、ゲストアーティストにはサンフランシスコ・バレエ団よりプリンシパルダンサーであるダヴィッド・カラベティアンを招聘し、一切の妥協を排し、考えられ得る最高のメンバーで舞台を創造することができた。

平成25年6月23日、メルパルクホール（東京都港区）にて2回公演。衣装、舞台装置ともにアメリカからレンタルし、世界最先端を行くウィールドン氏、ヨーク女史の作品を、日本のバレエ団として初めて日本の観客に紹介することにより、好評を得た。観客のみならず、ダンサーにとっても踊りの質の向上への寄与が感じられる活動であった。

特定非営利活動法人 日本バレエアカデミーバレエ団

〒359-1102 埼玉県所沢市岩岡町 281-11

Tel:04-2924-7000



▲「真夏の夜の夢」デビッド・カラベティアン（サンフランシスコバレエ） 峰岸千晶（NBAバレエ団） 他 NBAバレエ団ダンサー（撮影：鹿摩隆司）



▲「真夏の夜の夢」オリバー・ホークス 岡田亜弓（NBAバレエ団）（撮影：鹿摩隆司）

19 劇団青年座第 207 回公演 『横濱短篇ホテル』

有限会社劇団青年座

助成金額 10,700 千円

活動概要

劇団青年座は、トップレベルの舞台芸術創造事業の年間活動支援型として以下の活動にも助成を受けている。

- 劇団青年座第 208 回公演 『崩れゆくセールスマン』
助成金額 :7,200 千円
- 劇団青年座第 209 回公演 『LOVE,LOVE,LOVE』
助成金額 :6,800 千円
- 青年座・セレクション Vol.5 『夜明けに消えた』
助成金額 :5,400 千円

劇団青年座は、昭和 29 年当時劇団俳優座に在籍していた 10 名の若手俳優により創立され、既成の作家に捉われず、戦後派小説家や若手劇作家の作品を大胆に上演している。上演作品は、創作劇の他、先駆者的実験劇、近代古典、海外作品、ミュージカル等、幅広いレパートリーを有する。

本活動『横濱短篇ホテル』は、現代日本を代表する劇作家の一人マキノノゾミ、演出家宮田慶子、美術プランナー土岐研一、舞台監督尾花真をはじめとするスタッフにより作り上げたもの。マキノノゾミと宮田慶子のコンビは 1994 年『MOTHER』、1997 年『フユヒコ』、2001 年『赤シャツ』と 3 作を作り上げ、全てが演劇賞に絡む高い評価を得た息の合ったコンビである。また、出演者にはこれらの 3 作品に出演した青年座を代表する俳優、横堀悦夫、大家仁志、津田真澄、椿真由美をメインに配した。作者の意図を十分に膨らませることができる役者たちである。

今回の作品は、短編作品を 7 話つなぎ合わせたオムニバス形式の作劇である。舞台は、ある老舗ホテルの中のみで行われる。場としては 2 種類の客室、喫茶室、ロビーラウンジが設定され、時代が 1970 年から 5 年ずつ進んでいき、最終 7 場では現代に飛ぶ。

紀伊國屋ホールという極めて狭い舞台の上で、短い転換内で鮮やかに表現していく高い技術と発想の転換は、高い技術力を持つスタッフにより作り上げることができた。

二人の演劇部の女子高校生が、ちょっとした運命のいたずらで、一人は映画スターに一人は脚本家になっていく。しかしそれは決して順風満帆の途ではない。切ない恋やつらい思いを経験しながら二人は年を重ね初老に至った。その涙と笑いにあふれた人生は、観ている者の心をあたたくした。



▲撮影=坂本正郁 左から 椿真由美、大家仁志



▲撮影=坂本正郁 左から 津田真澄、横堀悦夫

有限会社劇団青年座

〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷 1-53-12

Tel:03-3467-0439 URL:<http://www.seinenza.com>

20 「満月～みんなの歌シリーズより～」

南河内万歳一座

助成金額 7,000 千円

活動概要

1980年大阪芸術大学の有志で旗揚げした南河内万歳一座は、結成以来30年以上大阪を拠点とし、新しい作品や取組を実施してきた。大阪という地域の中で「劇団」という拠点を持つことによって観客を育成し、大阪の文化度を高めようと活動している。

本活動「満月～みんなの歌シリーズより～」は、過去に上演した「みんなの歌」三部作をまとめて、リニューアルした作品である。「みんなの歌・1」は、生きるための想像に力尽きた者達が、死への一人旅で列車に乗る道中を描いたもの。「みんなの歌・2」は、妙な、行き先不明の列車に乗り合わせてしまった乗客たちのストーリー。「みんなの歌・3」は、もう生活の中で夢を見られなくなってしまい、キセル乗車だけに生きがいとアイデンティティを感じる主人公が、列車から逃走後、彷徨する魂と出会い、線路を引き返していく物語。行き先不明の列車に乗っているという暗喩の舞台空間で、誰かの夢の中で生かされている大衆がいる。夢にも思わぬ現実が向かい合ってしまったら？ 現実が夢を超えてしまった今、私たちは、その列車で何を思うのか。

三作に共通するのは、列車、生死、魂、夢である。それらをつつとまとめ上げ、演劇の幻想文学的展開の21世紀から生まれるスタイルを模索した。観客の想像力に訴え、豊かな芸術文化を提供した。

浪曲師の春野恵子氏を迎え、作品に浪曲を取り入れたことで、浪曲ファンも会場に足を運ぶことができ、他方、演劇ファンに浪曲の魅力を提供できた。また、関西小劇場の若手や演劇を学ぶ大学生をキャストिंगしたことで、今まで交流の機会が少なかった若い世代も多数来場していた。

南河内万歳一座

〒550-0015 大阪府大阪市西区南堀江 4-27-19-2F

Tel:06-6533-0298 URL:<http://banzai1za.jp>



▲「満月～みんなの歌シリーズより～」



▲「満月～みんなの歌シリーズより～」

21 ちえりあ・仙台寄席

公益社団法人落語芸術協会

助成金額 2,400千円

活動概要

公益社団法人落語芸術協会は、トップレベルの舞台芸術創造事業の年間活動支援型として以下の活動にも助成を受けている。

- 寄席定席公演 助成金額 :40,800千円
- 2013芸協らくご・大須寄席 助成金額 :2,000千円

公益社団法人落語芸術協会は、落語を中心とする寄席芸能の普及を図り、文化芸術の発展に寄与することを目的として、日本芸術協会として昭和5年に設立。東京での定席公演（浅草演芸ホール、上野広小路亭、新宿末廣亭、池袋演芸場、浅草演芸ホール）の他、北海道（ちえりあ寄席）、宮城県（仙台寄席）、愛知県（2013芸協らくご・大須寄席）と他地域に定席の寄席公演を定着させることを目的に活動を展開している。

本活動「ちえりあ・仙台寄席」は、ちえりあ寄席が札幌市生涯学習センターちえりあ（北海道札幌市）で平成25年8月23日～25日全4回、また、仙台寄席がセントラルホール（宮城県仙台市）他県内6カ所で平成25年4月～平成26年3月全34回、実施された活動である。

ちえりあ寄席に関しては、7年間の実績をもとに公的セクターと連携した市民参加型の定席公演、地域参加型の手作り寄席の確立を、仙台寄席については、仙台商工会議所のメンバーで作るプロジェクトの共同主催事業として、4年目を迎え内容のさらなる充実のために復興支援事業（出張寄席等）を実施している。

ちえりあ寄席では定席スタイルの番組による興行、仙台では毎月開催というスタイルの興行と、関東以北の二大都市に寄席を定着させることを主目的として活動を行ってきた。地方における寄席公演の拡充や演芸振興が期待できる大きな成果を挙げている。



▲「ちえりあ寄席」



▲「仙台寄席」

公益社団法人落語芸術協会

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 6-12-30 芸能花伝舎 2F
Tel:03-5909-3080

22 TTR 能プロジェクト秋公演 「卒都婆小町 一度之次第」

TTR 能プロジェクト

助成金額 700 千円

活動概要

TTR 能プロジェクトは、能を初めて見る人たちにレベルの高い舞台を提供し、正しく能の魅力を伝えることにより、新しい観客層を掘り起こし、能楽の振興および普及と、能楽堂以外の会場での新しい活動による能楽界への刺激による活性化を目的として平成 13 年に発足した。能楽囃子方、幸流小鼓方・成田達志と大倉流大鼓方・山本哲也により活動を開始し、数多くのシテ方を間近に見ている囃子方ならではの視点でキャストイング、選曲を行い、能の魅力を追求する公演を目指している。

本活動「卒都婆小町 一度之次第」は、平成 25 年 9 月 23 日大槻能楽堂（大阪府大阪市）で実施。老女物と呼ばれる難易度の高い演目で、TTR 能プロジェクトとしては初めての老女物の上演だった。東京から能楽界を代表する梅若玄祥氏と宝生閑氏にシテとワキを、また中堅能楽師のリーダーとも言える京都の片山九郎右衛門氏に地頭をと、考えうる限りのベストな布陣での公演を目指した。

また上演のみならず、開演前の見どころ解説や無料パンフレット配布により作品に対する理解度を深める工夫も行っている。

出演は、シテ：梅若玄祥、ワキ：宝生閑、ワキツレ：大日方寛、笛：杉市和、小鼓：成田達志、大鼓：山本哲也、地謡：片山九郎右衛門、山崎正道、河村晴道、味方玄、分林道治、川口晃平、山中雅志、今村哲朗、後見：大槻文藏、赤松禎英、解説：河村晴道。

豪華で、真にレベルの高い演者による質の高い舞台であり、観客にとっても、大阪の能楽師にとっても、刺激となるような公演となった。

TTR 能プロジェクト

〒 658-0064 兵庫県神戸市東灘区鴨子ヶ原 3-29-29
Tel:06-6422-6578



▲「卒都婆小町 一度之次第」



▲開演前の見どころ解説

23 MARCHING —明日へ—

MARCHING 株式会社

助成金額 20,000 千円

活動概要

昨今では、リーマンショックや東日本大震災等により、大人だけでなく若者をも巻き込んだ閉塞感が全国的に広がっているが、本作品は、夢を持ち飛び立とうとしている者や、夢を閉ざされようとしている者たちが逃げずに闘い、認め合い絆を強め、それぞれの未来を切り開いていく姿を、若者たちの視点からエンターテインメントとして描きたいと企画された映画。

港町・横浜の地を発祥とするマーチングバンドを軸に、福島のプラスバンドとの交流を通じて、2つの港町で悩み、音楽を通して、「本当に大切なものは」をテーマにしたヒューマンドラマとなっている。

主な出演者は、竹富聖花、桜田通、石田法嗣、小林涼子、YOKOHAMA ROBINS、林凌雅、水元凜、伊藤かずえ、酒井敏也、不破万作、香山美子、日野皓正、西郷輝彦。監督は、中田新一、脚本は関桂子である。エンディングテーマは主演俳優桜田通と親交のある UVERworld が楽曲「在るべき形」を書き下ろした。

製作期間は平成 25 年 8 月 1 日～ 26 年 2 月 28 日。上映時間は 112 分 47 秒。一次上映として、平成 26 年 5 月 24 日～平成 27 年 12 月 27 日、全国各都道府県主要都市の映画館での公開を予定。また、二次上映として、マーチングバンド組織のある地域で、幅広く音楽を愛する人々の支援協力を受けて、多様な形態・規模での上映会を開催していく予定である。

マーチングバンドの音楽のみならず、そのパフォーマンスと表現力の豊かさが描かれ、また、被災地いわきの人々との交流を通して得た体験や助言が作品に色濃く反映された作品である。



▲左から 桜田通 竹富聖花

MARCHING 株式会社

〒169-0073 東京都新宿区百人町 1-17-6 成田ビル 503
Tel:03-3363-3364

24 赤浜 Rock'n Roll

ソネットエンタテインメント株式会社

助成金額 2,000 千円

活動概要

本作品は、岩手県大槌町を舞台にしたドキュメンタリー映画である。

三陸地方の海の町、岩手県大槌町。豊かな北上山地を源流とする川が地下水となり、海底湧水となり、豊かな漁場を持つ美しい町である。大槌は、新巻サケの発祥の地であり、定置網によるサケの収穫が、この町の産業を支えてきた。

2011年3月、22mの津波と火災が襲い、人口1.5万人のうち、死者・不明1,281人。町の85%が喪失した。

自分たちの町を自分たちで守り、再生させようとする、誇り高い町民。漁協組合長の阿部力（つとむ・39歳）は、「大槌のアワビ、ワカメ、ホヤの成長は早い」といい、養殖漁業へ比重を移し、安定した漁業の再生に奮闘する。

県と国が提示した14.5mの巨大防波堤計画ではなく、住民自らがつくった高台移転の計画を町作り案とした川口博美（64歳）。川口は母、妻、孫（翔也4歳）を津波で失った。「自然は人間の力では制御できない。孫子の代まで安心して暮らすためには、住宅は高台に建設し、海を見て、逃げるしかない」との信念を貫く。

産業再生、住宅再建の困難に立ち向かいながら、効率優先、利益第一とは違う生き方を選ぼうとする阿部力と川口の生き方を描く。

撮影は、平成23年8月～平成25年3月まで2年6ヶ月に及んだ。その過程で見つめてきたのは「自然と共に生きる」精神と暮らしを再生させようとするプライドである。公開予定時期は、平成26年秋～、単館系映画館、自主上映会を予定している。



▲阿部力



▲大槌の海

ソネットエンタテインメント株式会社

〒141-6010 東京都品川区大崎 2-1-1 Think Park Tower9F

Tel:03-5745-1592

25 映画かいけつゾロリ まもるぜ！きょうりゅうのたまご

株式会社サンライズ

助成金額 20,000 千円

活動概要

本作品は、約 30 年にわたって愛され続けている国民的児童書シリーズ「かいけつゾロリ」（累計部数 3,300 万部）を継続的に劇場アニメ化していくことで、男女低学年の子どもたちと、就学前のまだ文字を読めない子どもたちに、より多くの夢と希望を与えたいと製作されたアニメーション。また、この映画製作を通じ、将来的に世界に向けて発信できる日本文化の担い手を育成することも企図されている。

製作期間は約 1 年間。映画の上映時間は約 80 分。平成 25 年 12 月 14 日～平成 26 年 4 月 30 日（予定）にて、全国テアトルシネマグループにてロードショー。声の出演はゾロリを山寺宏一、イシシを愛河里花子、ノシシをくまいもとこ、ディナを水樹奈々、きょうりゅうママを野沢雅子が熱演。監督を岩崎知子、脚本をもりたけし、キャラクターデザインを船越英之が担当した。

あらすじは、ゾロリとイシシ&ノシシは、きょうりゅうママからたまごが生まれたと聞き、一目見ようと、きょうりゅうが住む“おとっ島”を訪れた。楽しい時間を過ごしていたが、夜に台風が直撃し、たまごが海に飛ばされてしまった。大荒れの海に飛び込むゾロリたちは無事にたまごを持ち帰ると、きょうりゅうの家族に約束する。果たして、無事にたまごを家族の元へ届けられるのか。

ハッラハラ、ドッキドキの冒険物語は、子供たちを魅了した。

株式会社サンライズ

〒167-0023 東京都杉並区上井草 2-44-10
Tel:03-3397-0211



▲「映画かいけつゾロリ まもるぜ！きょうりゅうのたまご」ポスタービジュアル



▲ゾロリ、イシシ、ノシシの目の前には大きな恐竜のたまご！

26 盲目の砂糖

Kuma films

助成金額 1,000 千円

活動概要

Love is blind「恋は盲目」シェイクスピアの言葉より。恋人たちの行動は実に奇妙である。傍からみたらぞっとしてしまう行為を、二人の世界に入ってしまった恋人たちは、平気でやってのけてしまう。「盲目」の時にしか出ない力というものが確実にある。本作品は、そのような現代の人間の恋愛感覚をコミカルに描いたアニメーション映画である。

(場面 A オフィス) 男の PC に砂糖をぶちまける女。それに憤慨する男。仲の悪い様子。男は PC の上に積もった砂糖を指でちびちびと取り除いていく。

(場面 B カエル) カエルの二人は空中ブランコで手を取り合って遊んだり、胸からハトを出したり、とにかくとてもラブラブで、何をしていても楽しく笑い転げる。険悪な二人とラブラブな二人が対比され、描かれていく。なぜ二人はこんなことを繰り返しているのか。

カエルの二人はオフィスの男女の心象風景なのである。つまり、怒り合っていることを楽しんでいるのである。

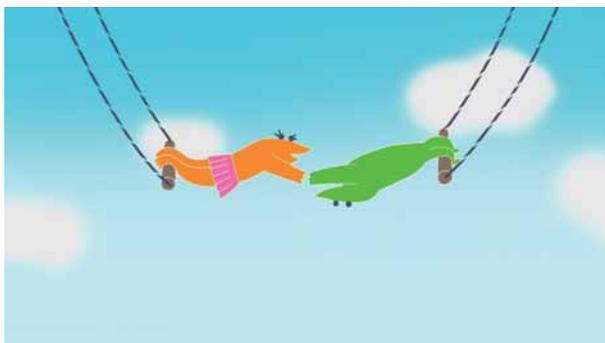
ある日、給湯室の砂糖がなくなる。その時、二人はどうなるのか。

製作期間は 1 年。現代の恋愛模様の 1 例を独自の視点で表現している。音楽は、バイオリン、ギター、ドラムの生演奏が豊かな表現で再現されている。

平成 26 年秋に一般公開の他、youtube や vimeo 等、インターネット上でも作品が閲覧できるよう構想されている。



▲「場面 A オフィス」



▲「場面 B カエル」

Kuma films

〒231-0005 神奈川県横浜市中区本町 4-44 東京藝術大学大学院映像研究科内



芸術文化振興基金

芸術文化振興基金による助成

目的

「芸術文化振興基金」は、すべての国民が芸術文化に親しみ、自らの手で新しい文化を創造するための環境の醸成とその基盤の強化を図る観点から、芸術家及び芸術に関する団体が行う芸術の創造又は普及を図るための活動、その他の文化の振興又は普及を図る活動に対する援助を継続的・安定的に行うことを目的としています。

助成対象活動

◆芸術家及び芸術団体が行う芸術の創造・普及活動

- オーケストラ、オペラ、室内楽、合唱、バレエ、現代舞踊、演劇等舞台芸術の公演活動
- 文楽、歌舞伎、能楽、邦楽、邦舞等の伝統芸能の公開活動
- 落語、講談、浪曲、漫才、奇術等大衆芸能の公演活動
- 美術の展示活動
- 国内映画祭等の活動
- 特定の芸術分野にしばられない公演・展示活動

◆地域の文化振興を目的として行う活動

- 文化会館、美術館等の地域の文化施設において行う公演、展示その他の活動
- 歴史的集落・町並み、文化的景観の保存・活用に直接資するセミナー等の催し物、資料収集・作成、普及啓発による保存活用活動
- 民俗文化財の公開、広域的な交流、復活・復元による伝承、記録作成による保存活用等の活動

◆文化に関する団体が行う文化の振興、普及活動

- アマチュア等の文化団体が行う公演、展示その他の文化活動
- 伝統工芸技術、文化財保存技術の保存伝承、公開活用、記録作成による保存活用活動、衰退した伝統工芸技術の復元活動

※詳細は、ホームページ <http://www.ntjjac.go.jp/kikin.html> をご覧ください。



文化芸術振興費補助金による助成

目的

国からの文化芸術振興費補助金を財源として、我が国の舞台芸術の水準を向上させる牽引力となっているトップレベルの芸術創造活動や優れた日本映画の製作活動を助成しています。

助成対象活動

◆トップレベルの芸術団体が行う舞台芸術活動

- 音楽・・・オーケストラ、オペラ、室内楽、合唱等
- 舞踊・・・バレエ、現代舞踊、民族舞踊等
- 演劇・・・現代演劇、児童演劇、人形劇、ミュージカル等
- 伝統芸能・・・古典演劇（歌舞伎、人形浄瑠璃、能楽等）、邦楽、邦舞、雅楽、声明等
- 大衆芸能・・・落語、講談、浪曲、漫才、奇術、太神楽等の公演活動

- 支援の形態には、活動毎に助成を行う公演単位支援型と、複数の公演を一括して助成する年間活動支援型があります。

◆映画製作への支援

- 劇映画、記録映画、アニメーション映画製作

※詳細は、ホームページ <http://www.ntjjac.go.jp/kikin.html> をご覧ください。

発行日 _____
平成27年3月1日

編集発行 _____
独立行政法人
日本芸術文化振興会 基金部
〒102-8656 東京都千代田区隼町4-1
☎ 03-3265-6302
URL <http://www.ntjjac.go.jp/kikin.html>

